

2022年7月28日

報道関係者各位

特別展「*Homō loquēns* 『しゃべるヒト』  
——ことばの不思議を科学する」  
2022年9月1日(木)～11月23日(水・祝)

新型コロナウイルス感染症の予防のため、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1)では、特別展「*Homō loquēns* 『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」を、2022年9月1日(木)から11月23日(水・祝)まで開催します。

身近にありすぎてほとんど振り返ることのない「コトバ」をテーマに、言語学のみならず、文化人類学、工学系、教育系、脳科学、認知心理学等の50名を超える国内外の研究者が協力して、その不思議をおみせします！さらに展示の一部として、映像作家の山城大督がことばをイメージした作品を公開！

特別展  
ことばの不思議を科学する  
しゃべるヒト

会場：国立民族学博物館 特別展示室 解説書：日本語・日本語手話英語

2022  
9.1 (木)  
— 11.23 (水・祝)  
September 1—November 23, 2022  
The Special Exhibition Hall,  
National Museum of Ethnology  
Language for Exhibition  
Japanese, Japanese Sign Language, English

「*Homō loquēns*」は、言語学、文化人類学、工学系、教育系、脳科学、認知心理学等の50名を超える国内外の研究者が協力して、その不思議をおみせします。さらに展示の一部として、映像作家の山城大督がことばをイメージした作品を公開！

国立民族学博物館  
大阪府吹田市千里万博公園10-1 電話：06-6543-2111 受付時間：10時～17時（入館は16時30分まで）  
〒565-0872 大阪府吹田市千里万博公園10-1 URL: <https://www.museum.ac.jp/>

## 展示の見どころ

ことばについての展示というと、「世界にはたくさんの言語がある」という、外国語の話だと思われるかもしれませんが、本展では、コトバの伝達や習得のしくみ、ヒトとコトバの関係をご紹介します。来館者にコトバについての新しい「気づき」を提供するため、次のような角度からコトバを紹介します。

### ■とりあげるのは、手話言語と音声言語

本展では、「手話言語」と「音声言語」という二種類の人間の言語をとりあげます。視覚や聴覚という伝達方法の違いはありますが、どちらも人間の認知能力に立脚した言語としての構造をもっています。「なぜ手話が言語なのか」ということや「そもそも言語とはなにか」ということを、「コトバが伝わるしくみ」、「コトバを発する身体のしくみ」、「コトバを身につけるしくみ」とおして紹介します。

### ■解説言語に日本手話

本展では、音声言語である日本語や英語とあわせて、手話言語である「日本手話」で展示場内の解説をします。「日本手話」が第一言語の方への情報提供手段となることはもちろん、手話が地域によって異なる表現を使用する言語であることを知らない方へは、手話の多様性を知っていただくきっかけとなるかもしれません。

### ■言語研究の多様性

みんぱくの言語研究は、「言語学」を専門とする研究者がおこなっていますが、実は言語に関する研究は、医学、工学、教育学など、多様な分野でおこなわれています。例えば、喉から声が出る仕組みは工学系の研究、子どもが言語を習得する過程は認知科学、外国語を学習する方法は教育学、もちろん身体を使うので医学…。

国内外の 50 名を超える研究者の協力のもと、これらそれぞれの分野における、最新の言語に関する研究や開発の成果を紹介します。

### ■言語の多様性——私の言語ヒストリー

展示の後半で現れる、「私の言語ヒストリー」という動画。

ここでは、社会でさまざまな形で言語とつきあいながら活躍する 20 名の方々の言語ヒストリーを紹介します。人と言語のかかわり方は多様で、また、ライフイベントによって変化することもあります。言語に関わる脳・身体機能上の疾病や障害は身近に存在しています。言語使用が思うようにならない場合でも、補助ツールなどにより、コミュニケーションが可能です。言語のかたちに関わらず、すべての人が社会の一員であること、また、社会で活躍し得ることについて示します。

### ■言語を体験的に理解するプログラム

本展の会期中に、さまざまな関連イベントを予定しております。講義形式のイベントや、体験型のワークショップをおして、さまざまなコトバについて、より深く理解することができます。

みんぱくウィークエンド・サロンでは、土佐信道氏プロデュースによる、中小電機メーカーに「擬態」した芸術ユニットである明和電機にも登場していただきます。

## 展示構成

### 1F コトバのしくみ

1. 言語ってなに？&コトバのしくみ
2. コトバを発する身体のしくみ
3. コトバを身につけるしくみ

### 2F コトバと多様性

4. コトバの多様性
5. コトバとヒトの関係の多様性
6. コトバの研究の多様性



## 解説言語

日本語、日本手話、英語

模型画像提供：荒井隆行

### 【新型コロナウイルス感染症に関するみんなの主な取り組みのご紹介】

※本館では安心してご来館いただくための取り組みをおこなっています。

- ・スタッフは、マスクを必ず着用します。
- ・エレベーター、トイレや手すりなどは、定期的に消毒をおこなっています。
- ・館内各所に手指用のアルコール消毒液を設置しています。
- ・館内の換気の強化をおこなっています。



その他の取り組み等はこちら

[https://www.minpaku.ac.jp/aboutus/covid\\_19\\_torikumi/kanran](https://www.minpaku.ac.jp/aboutus/covid_19_torikumi/kanran)

## 関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんぱくホームページをご確認ください。  
 ※各イベントは日本語での開催で、手話通訳やユニバーサル支援ツール等の使用を組み合わせさせていただきます。詳細は決まり次第、順次みんぱくホームページに記載します。

### みんぱく映画会

#### 「シニエ—手話を話す—」

**会場** 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）  
**日時** 10月8日（土）13:30～15:50（13:00開場）  
**上映作品** 「シニエ—手話を話す—」  
**総合司会** 吉岡乾（国立民族学博物館 准教授）  
**司会** 相良啓子（人間文化研究機構・国立民族学博物館）  
**解説** Sara Lanesman（イスラエル手話講師）  
 森田明（明晴学園 教頭）  
**定員** 200名  
**参加方法** 事前申込制（先着順）／参加無料（要展示観覧券）  
**内容** イスラエルで制作された、手話に関するドキュメンタリー映画。手話の継承や翻訳、新しいコミュニケーションの世界をのぞいてみましょう！



手話通訳者ガル（左）とろう者の祖母（右）

#### 「たき火」

**会場** 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）  
**日時** 11月3日（木・祝）13:00～16:25（12:30開場）  
**上映作品** 「たき火」  
**総合司会** 菊澤律子（国立民族学博物館 教授）  
**司会** 相良啓子（人間文化研究機構・国立民族学博物館）  
**解説** 大館信広（映画監督）  
 尾中友哉（NPO 法人 Silent Voice 代表）  
 千々岩恵子（映像制作者）  
**定員** 200名  
**参加方法** 事前申込制（先着順）／参加無料（要展示観覧券）  
**内容** ろう者として日本のデフ・ムービーを開拓した映画監督・深川勝三（1924-1985）の遺作。昭和40年代のろう者の手話と生活を記録した貴重な作品です。お楽しみに！



映画監督および出演者全員がろう者の映画「たき火」



みんなくゼミナール

第 526 回「アートと学問のジャムセッション」

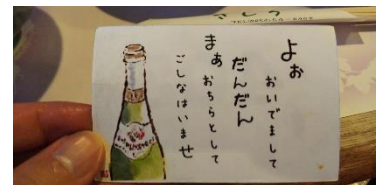
**会場** 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）  
**日時** 10月15日（土）13:30～15:00（13:00 開場）  
**講師** 菊澤律子（国立民族学博物館 教授）  
 川瀬慈（国立民族学博物館 准教授）  
 山城大督（Twelve Inc.・京都芸術大学 専任講師）  
**定員** 200名  
**参加方法** 事前申込制（先着順）／参加無料  
**内容** アーティストと人類学者の交流や協働の現場における、思考や実践の交点、相違を検証。アートと学問のジャムセッションがひらく、新たな知と創造の地平を展望します。



“Play! Theatre in Summer Open Day” ROHM Theatre Kyoto, Kyoto, 2019 撮影 Kenta Yamaji

第 527 回「身の回りをフィールド言語学する」

**会場** 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）  
**日時** 11月19日（土）13:30～15:00（13:00 開場）  
**講師** 吉岡乾（国立民族学博物館 准教授）  
**定員** 200名  
**参加方法** 事前申込制（先着順）／参加無料  
**内容** 言葉は身の回りに溢れている——。コロナ禍で現地調査に行けず、虫熱しに身近を言語学的に見詰めなおしてみたら、思っていたより考えどころがありました。皆さんもちょっと、なぞってみませんか。



なぜそこで方言が選択されるのだろうか？

ワークショップ

「複言語・複文化脱出ゲーム 中国語編『本の世界からの脱出』」

**会場** 国立民族学博物館 第5セミナー室（本館2階）ほか  
**日時** 9月23日（金・祝）、10月29日（土）、11月12日（土）  
 午前の部 10:30～12:30、午後の部 14:00～16:00  
**講師** 菊澤律子（国立民族学博物館 教授）  
 杉本香（大阪大谷大学 准教授）  
 稲垣裕史（大阪大谷大学 准教授）  
 大阪大谷大学文学部日本語日本文学科杉本ゼミ生  
**定員** 各回 20名  
**対象** 小学生以上（小学2年生以下は保護者または高校生以上の同伴者と参加）  
**参加方法** 事前申込制（先着順）／参加無料／募集開始日：9月1日（木）午前10時  
 ※申込（大阪大谷大学）はこちら  
<https://forms.gle/2S1evJr4ekPLGDHo8>  
**お問い合わせ** 国立民族学博物館企画課 博物館事業係 電話 06-6878-8532 平日（月～金）9:00～17:00  
 大阪大谷大学文学部日本語日本文学科杉本ゼミ  
[honnosekai.dasshutsu2022@gmail.com](mailto:honnosekai.dasshutsu2022@gmail.com)  
**主催** 国立民族学博物館

- 大阪大谷大学文学部日本語日本文学科杉本ゼミ
- 内 容** 冬休みに図書館を訪れたあなた。宿題のために本を探していると様子のおかしい本が。気になって本を開いたあなたは友人と共に本の中の世界に迷い込んでしまう。舞台は言葉も文化も分からない、お正月を迎えた中国。たくさんの人の手を借りながらあなたは元の世界へたどり着けるか。鍵となるのはランタン祭り？さあ、あなたも中国正月之旅へ。

### 「方言版異言語脱出ゲーム 琉球語編『紡がれるもの～おじいとおばあとおの物語～』

- 会 場** 国立民族学博物館 第4セミナー室(本館2階)ほか
- 日 時** 9月11日(日)  
午前の部 10:30～12:30、午後の部 14:00～16:00
- 講 師** 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
山田真寛(国立国語研究所 准教授)  
中川奈津子(国立国語研究所 准教授)  
新永悠人(弘前大学 准教授)
- 定 員** 各回28名
- 対 象** 本公演初プレイの方  
推奨年齢は高校生以上(小学生高学年レベルの日本語の読み書き、日本語でのコミュニケーションができる方を対象にしています。中学生までは大人の同伴が必要。)
- 参加方法** 事前申込制(先着順)／参加無料  
※申込及び詳細はこちら  
異言語 Lab. <https://www.igengoescapegame.com/>
- 主 催** 国立民族学博物館  
国立国語研究所  
一般社団法人異言語 Lab.
- 内 容** 琉球諸島(奄美大島, 石垣島, 与那国島)をテーマに各地の方言や文化を織り交ぜた謎を解く方言版異言語脱出ゲームです。

### 「異言語脱出ゲーム 日本語手話編『うしなわれたころさがし』

- 会 場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)ほか
- 日 時** 10月9日(日)、10月10日(月・祝)  
午前の部 10:30～12:30、午後の部 14:00～16:00
- 講 師** 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
菊永ふみ(異言語 Lab. 代表)
- 定 員** 各回24名
- 対 象** 手話を知らない方、本公演初プレイの方  
(中学生以上、小学生は18歳以上の大人の同伴が必要)
- 参加方法** 事前申込制(先着順)  
※申込及び詳細はこちら  
異言語 Lab. <https://www.igengoescapegame.com/>
- 参加費** 前売りチケット: 1名につき4,500円(中学生～大人)、3,500円(小学生)  
※国立民族学博物館特別展招待券付き  
詳細は上記の異言語 Lab. の公式サイトをご確認ください。
- 主 催** 一般社団法人異言語 Lab.  
国立民族学博物館
- 内 容** ろう者のアテンドと手話、身振り、絵に描く等、さまざまなコミュニケーションを取りながら謎解きをしていただき、ミッションをクリアしていくゲームです。2022年3月に「究極の体験型だった」「心に残る旅だった」と多くの方々より大好評を頂いた異言語 Lab.による「うしなわれたころさがし」が大阪に初上陸!

## 「レゴブロックを使ったプログラミング言語ワークショップ —プログラミング体験から『ことば』の伝え方を学ぼう！」

**会 場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日 時** 10月16日(日)、11月6日(日)  
**参加方法** 申込不要(先着順)／参加無料  
**企画・実施** 国立民族学博物館  
 佐野睦夫(大阪工業大学 教授)  
 上田信行(同志社女子大学 名誉教授・大阪工業大学 客員教授)  
 同志社女子大学現代社会学部現代こども学科吉永ゼミ

### シンポジウム

#### インターアクティブ・シンポジウム 「生物としてのヒトと言語について考える」

**会 場** 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール (講堂)  
**日 時** 10月9日(日)  
**講 師** 久賀谷亮(精神科医)  
 久保田直行(東京都立大学 教授)  
 齋藤陽道(写真家)  
 土佐信道(明和電機 代表取締役社長)  
**企画・協力** 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
 上田信行(同志社女子大学 名誉教授・大阪工業大学 客員教授)  
 同志社女子大学現代社会学部現代こども学科吉永ゼミ

### 友の会講演会

#### 第528回友の会講演会「伝わらないことば」

**日 時** 9月3日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)  
**講 師** 吉岡乾(国立民族学博物館 准教授)  
**聴講方法** ① 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階) (定員96名)  
 ② オンライン(ライブ配信)  
**参加方法** オンライン聴講ならびに友の会会員以外の方のご参加には事前申込が必要です。  
 友の会会員:無料、一般:500円(資料代、会場参加のみ)  
 友の会ホームページ内、第528回友の会講演会受付フォームより  
<https://www.senri-f.or.jp/528tomo/>  
**お問い合わせ** 国立民族学博物館友の会(千里文化財団) 06-6877-8893  
**内 容** 言語は意思伝達に用いられる、ヒト特有の道具です。動物の意志疎通ツールと異なり、言語の特性のひとつに、無限の表現を作り出せるし理解もできる、「創造性」があります。言語によって表現できない考え、伝えられないメッセージは、原則的にありません。それなのに、世の中に伝わらない言葉が間々あるのは何故なのでしょう。

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

「殺魚棒とオタマトーン」

**会場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日時** 9月18日(日) 14:30~15:30 (14:00開場)  
**講師** 土佐信道(明和電機 代表取締役社長)  
 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
**定員** 42名  
**参加方法** 申込不要/当日先着順/要展示観覧券  
**内容** 明和電機 土佐氏は、1992年にみんなくにて殺魚棒に出会い「道具としての芸術をつくる」と決意し、現在のオタマトーンまで続く明和電機の軸を生みました。今回のサロンでは、殺魚棒とオタマトーンという「顔がある道具」をとりあげ、道具における機能性と呪術性について解説します。



オタマトーンを持つ明和電機、土佐氏  
撮影：三橋純

「いざ、ウルドゥー語入門(せめて文字だけは編)」

**会場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日時** 10月23日(日) 14:30~15:15 (14:00開場)  
**講師** 吉岡乾(国立民族学博物館 准教授)  
**定員** 42名  
**参加方法** 申込不要/当日先着順/要展示観覧券  
**内容** パキスタンの国語であり、インドにも多くの話者が居るウルドゥー語。話せる人が2億人を超えるこの大言語ですが、どうしてなのか日本での知名度は今一つです。けれども語学を始めるのに遅過ぎるなんてことはありません。今日もその門扉は開かれています。



おお、おめでたい……のか？

「『世界を見せる』から『世界観に触れる』へ——誰のための点字考案200周年なのか」

**会場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日時** 10月30日(日) 14:30~15:15 (14:00開場)  
**講師** 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)  
**定員** 42名  
**参加方法** 申込不要/当日先着順/要展示観覧券  
**内容** 2024年は点字考案200周年に当たります。ルイ・ブライユは視覚障害者が自力で読み書きできる「さわる文字」として点字を考案しました。人類にとって触覚で情報を入手・伝達するとは、どんな意味があるのでしょうか。点字から始まる「さわる文明」の可能性についてお話しします。



点字筆記具の変遷  
(木製点字盤(右)、  
点字タイプライター(左上)、  
点字電子手帳(左下))



## 「脳波で言語理解の脳内処理を探る」

**会場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日時** 11月20日(日) 14:30~15:00 (14:00開場)  
**講師** 井原綾(国立研究開発法人情報通信研究機構 主任研究員)  
 吉岡乾(国立民族学博物館 准教授)  
**定員** 42名  
**参加方法** 申込不要/当日先着順/要展示観覧券  
**内容** 脳波は脳の神経活動を頭皮上においた電極で計測したもので、ヒトの知覚や認知を知るための有効なツールです。脳波を調べることで、ことばを理解するときの脳の働きについて何がわかるのか、最新の脳波研究のご紹介も交えながらお話しします。



脳波実験の様子

## その他イベント

### 連続講座 SpringX 超学校 みんなく×ナレッジキャピタル「コトバとつきあう」シリーズ (全4回)

**開催形式** オンライン(YouTube Live、Zoom)  
**日時・講師** 第1回 ヒトとコトバと展示編  
 8月9日(火) 19:00~20:00  
 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
 第2回 音声の工学シミュレーション編  
 9月2日(金) 19:00~20:00  
 吉永司(豊橋技術科学大学 助教)  
 第3回 身体の違いとことばの多様性編  
 10月7日(金) 19:00~20:00  
 中島武史(兵庫教育大学 講師)  
 第4回 英語学習の脳科学編  
 11月4日(金) 19:00~20:00  
 尾島司郎(横浜国立大学 教授)

**参加方法** ナレッジキャピタル YouTube アカウントよりオンライン(ライブ配信)で視聴  
 SpringX 超学校 ナレッジキャピタル運営公式サイトはこちら  
<https://kc-ijp/activity/chogakko/minpaku2022/>  
 ※申込不要、参加無料  
 ※参加者には特別展入館料割引特典があります。  
 詳細については、上記サイトをご覧ください。

**主催** 一般社団法人ナレッジキャピタル  
 国立民族学博物館

**内容** 「コトバを話すとき、ヒトの脳はどうなっているの?」「手話言語と音声言語は、なにが同じでなにが違うの?」「そもそもヒトは、どうやってコトバを身につけているの?」身近にありすぎてほとんど振り返ることのない「コトバ」をテーマに、言語学のみならず、工学系、教育系、脳科学等のさまざまな視点からみたコトバについてご紹介します。

**浜屋敷 民博楽座**

「あなたにとって『ことば』とは？～この秋、言語展示で新たな発見をしよう！～」

**会 場** 吹田歴史文化まちづくりセンター「浜屋敷」 <https://hamayashiki.com/>  
**日 時** 9月17日(土) 14:00～16:00  
**講 師** 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
**定 員** 30名(先着)  
**参加方法** 事前申込制/先着順  
 9月1日(木)より浜屋敷(電話:06-4860-9731)にて電話受付  
**参加費** 500円  
**内 容** ことばや体との関係、ことばが通じる仕組み、いろいろな人とことば・・・ことばについて新しいことをいっぱい発見してください。

**図書館講座じゅずつなぎ**

**会 場** 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)  
**日 時** 10月24日(月) 14:00～  
**講 師** 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)  
**企画・協力** 山田駅前図書館、国立民族学博物館  
**参加方法** 事前申込制/申込開始日:10月2日(日)午前10時  
 要展示観覧券  
**お問い合わせ** 吹田市立子育て青少年拠点 夢つながり未来館  
 山田駅前図書館 中島  
 〒565-0824 大阪府吹田市山田西4丁目2-43  
 電話:06-6816-7722  
**内 容** 本特別展に関連した講義と、特別展の見学をおこないます。

## 開催概要

展覧会名	特別展「 <i>Homō loquēns</i> 『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」
会場	国立民族学博物館 特別展示館
会期	2022年9月1日(木)～11月23日(水・祝)
開館時間	10:00～17:00 (入館は 16:30 まで)
休館日	水曜日(ただし、11月23日(水)は開館)
観覧料	一般 880 円 (600 円) 大学生 450 円 (250 円) 高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 ※期間中一部展示替えをおこないます。 *( )内は、20 名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3 ヶ月以内のリピーター、満 65 歳以上の方の割引料金(要証明書等)。 * 障害者手帳をお持ちの方は、付添者 1 名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
協力	一般社団法人撫子寄合(NAYO)、大阪大谷大学文学部日本語日本文学科杉本ゼミ、大阪工業大学、学校法人明晴学園、公益財団法人千里文化財団、国立科学博物館、国立研究開発法人情報通信研究機構、手話引き辞典開発プロジェクト、ソフトバンク株式会社、多摩美術大学、筑波技術大学 ISee プロジェクト、東京医科歯科大学、東京湾岸リハビリテーション病院、同志社女子大学現代社会学部現代こども学科吉永ゼミ、特定非営利活動法人 Yes, Deaf Can!、豊能障害者労働センター、法政大学沖縄文化研究所、明和電機、横浜市瀬谷区聴覚障害者協会
後援	朝日新聞社、NHK大阪放送局、京都新聞、国立国語研究所、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

実行委員長 菊澤律子(国立民族学博物館 教授)

言語の記述や史の変遷とその研究手法、言語情報に基づくオセアニアの先史研究を専門とする言語学者。2011 年から進めている手話言語学研究推進事業を土台とし、近年は、生物としてのヒトと言語のあり方と、その結果としての社会習慣や文化現象にも関心を持つ。人間文化研究機構「コミュニケーション共生科学の創成」プロジェクト代表。

